



成長と感謝

校長 山崎 泰央

校庭の桜の芽がふくらみ、日に日に春の足音が聞かれるようになりました。平成から令和へと時代が移り変わったこの一年間の子どもたちの成長を、本年度最後の参観日やスキー宿泊学習から感じました。

I 参観日の学習や講演から

今年度最後の参観日は、「感謝と成長」がテーマでした。各教室を参観しながら、どの学年・学級も友達や先生とのつながりが深まった温かい雰囲気の中で学習が進められていました。「児童玄関前でよく縄跳び練習をしていた子どもたちが、上手に跳べるようになっていく」「年度当初は恥ずかしそうに学習していた子どもが、意欲的に発表するようになっていく」「ただ自分の考えを言うだけでなく、友達の話も聞きながら学べるようになっていく」「子どもが生き生きして学ぼうとする雰囲気が学級にあふれている」など、たくさんの成長が見られうれしく思いました。

講演会では、世界と渡り合う「なでしこジャパン」のコーチ・大部さんに、選手を育てた経験から学んだことについてお話をいただきました。「私たち大人は、子どもの未来に触れている」「子どもが、判断し行動に移そうとするのに、大人がその流れをさえぎっている」「子どもが考え判断する力をつけられるよう、大人も言葉かけが大切」「習慣の 9 割が人間性となる」「もうだめとあきらめないでちょっとだけ無理してみる」などと話され、子どもとの関わり方を考えさせられました。これからも子どもの自立をめざし、大部さんの講演のように、ともに「ベスト・サポーター」として成長を応援していきましょう。

II スキー宿泊学習の 2 日間から

暖冬にも関わらず雪に恵まれ、5・6 年生のスキー宿泊学習は、誰一人体調を崩すことなく充実した 2 日間となりました。スキー実習では、スキー板が思うように動かさなくてもやる気をなくす子どもは一人もなく、それぞれが自分の目標に向かって楽しそうに頑張りました。粘り強く前向きな智頭の子どもたちの姿を見て、とてもうれしく思いました。宿でも、食事の準備や片付け、部屋の片付けなどを進んで行い、「冬山のスポーツに親しむ」「時間を守って行動する」「粘り強く取り組む」「友達と励まし合い協力する」「自分の役割を果たす」など、多くの学びがありました。

さて、高学年が留守の間、学校をリードしてくれたのは中学年でした。登校班長として低学年を連れてくるという責任を果たし、低学年も中学年に従って安全に登校することができました。また、4 年生は、委員会の仕事を一手に引き受け、張り切って活動しました。朝のあいさつ運動や放送、給食の片付け、本の貸し出し、黙働清掃の点検など、それぞれの委員会の仕事を力を合わせてやり遂げ、高学年に向けて自信とやる気を掴んだようです。

3 学期もラストスパート。6 年生は中学校へ向けて、5 年生は最高学年に向けて、1～4 年生は次年度への進級に向けて着々と準備を進めています。